



福島空港 公園づくり

第3号

Fukushima Airport

平成27年3月5日発行

／福島空港公園運営検討委員会事務局

かわらばん

第2回 福島空港公園運営検討委員会 開催

●第2回福島空港公園運営検討委員会

福島空港公園の広大なフィールドを活用した地域活動やNPO活動など多様なニーズの活用
の場として運営するための仕組みづくりや魅力ある公園としてどう活用していくか検討する事
を目的に、昨年11月、「福島空港公園の目指すべき方向性」と題し第1回福島空港公園運営
検討委員会を開催しました。

その後、福島空港公園で活動したい団体やNPO等の皆さんとワークショップを開催し、活
発な意見交換を行いました。

今回は福島空港公園の魅力を確認し「福島空港公園の目指すべき公園像」について議論する
ため、2月13日に「**第2回福島空港公園運営検討委員会**」を開催しました。



NPO等の団体へのヒアリング、地域住民へのアンケート調査等のニーズ調査の結果や福島
空港公園ワークショップでの話し合いの結果などを事務局より説明し、各委員から福島空港公
園の公園像について、ご意見等を頂きました。

委員からの主な意見

大
八
木
委
員

- ・現状では空港公園というと、エアフロントエリアというイメージが強い。
- ・公園へのアクセスが「分かりづらい」と言われることが多く、エリア名称は変えたほうかよい。

阿
部
委
員

- ・森林環境学習の依頼が、小中学校等から年間100件程度あるが、福島空港公園を活用した依頼はない。
- ・森林環境学習の場として福島空港公園を活用するイメージが無いと思われる。
- ・福島空港公園には散策コースがあることや、こぶしの丘もあり、岩法寺に白いこぶしの花が咲くと農作業が始まる歴史があった。
- ・この公園が地域と結びつく誇りを持った子ども達を育成する場所としたい。
- ・ホームページなどを活用し、福島空港公園がそういう場所である事をPRしてほしい。

高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用地を、どのあたりまで利用できるかを明確にする必要がある。 ・また新しいものを作る前に、現状をどの程度利用できるかを確認する必要がある。 ・空のみちウォークのコースも自由に使えればいいと思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけの使える公園があること、NPOでも使ってみたいという団体が多いことは驚き。 ・誰の公園かという問いには、福島県全体の公園、地元が大事にしている公園、という風になればよい。 ・NPOとしては、「公園は利用できる場所」ということを知らせる必要がある。 ・NPOが使える予算もたくさんある。企画のブラッシュアップと予算をくっつける。 ・NPOがゲストでもありホストでもあり、公園づくりにどのように関わられるのか、実際にやってみて理解できればよい。
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画で示されている、「多くの人々」という表現は曖昧で、まずお客様は誰ですか、という問いが必要。 ・たとえばクロスカントリーなら大学生とか、年間どのくらい利用するかなどターゲットを絞り込む必要がある。 ・マイパーク、マイ空港になるような使い方を考えたい。 ・ここには素晴らしい資源があって、週末にはなんだかんだ行きたくなる場所、例えばスタバのようなサードプレイスとなるパーク。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の公園づくりということなので、HPなどから空港公園の利活用に関する情報が分かる、健康増進、子育て向けなど、目的に応じたエリアを明確にして情報発信してほしい。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・エアフロント以外は目的を持ってくる人が多い。 ・未供用地の中には少し整地したり、柵を作ったりすれば、ノルディックウォークやクロスカントリーなどで供用できる部分もあるのではないか。 ・その道の人に意見を聞いて必要最低限の整備だけすれば未供用地の利用が進む。 ・整備に必要な予算については、子供たちの育成を支援する予算などがあるため、このような予算の活用を検討してはどうか。 ・またエアフロント以外は分りづらいため、名称は検討した方が良いのではないか。
高木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ウルトラマンなどのキャラクターを利用する場合は、公園の利用とどう結び付けていくかが重要である。そのイメージで来た利用者の期待がはずれだった場合は、リピーターにはならない。 ・利用する側とそれを支える側。支える側は地元である。マラソン大会にたくさん人が集まるのは、地元がどんな「おもてなし」をするかが楽しみだからである。 ・そう考えると、場所への思いが大事で、ここを確認して進めていくのが理想的である。 ・広大な公園なので、エリアごとにターゲットを設定することも考えられる。
金子委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで提案されている未利用地でのイベントが魅力的になると、地元のリピーターが増えるのではないか。 ・委員の皆様の意見をまとめると、福島空港公園は、飛行機と自然環境、スポーツを体験できる公園で、いろいろな方の支えがあって県民が楽しめる公園。地元の産業、住んでいる方が輝ける、NPOが活動しながら輝けるといふ公園でもある。共通するところはマイパーク、マイ空港。空港も含めて、地元が元気になれば、空港も元気になる。さしあたっての課題は、公園名も含めた発信であり、今後検討していく必要がある。

●第2回福島空港公園運営検討委員会について（事務局より）

委員の皆様、お忙しい中、ご出席いただき、活発なご意見ありがとうございました。公園像について、ご意見をお聞きし、皆様には福島空港公園のポテンシャルの高さは感じていただいておりますが、福島空港公園を参画・協働で運営していくためには、ここがマイパークと思えるような取り組みが必要だと感じました。

一方でNPO等へのヒアリングや地元の方へのアンケート調査、又ワークショップなどを通して、福島空港公園への様々な要望や公園を利用した活動への思いが出されており、「福島空港 公園づくり」への期待を感じているところです。

次回は、参画・協働による公園運営のしくみについてご議論いただく予定です。